



「現在子育て中の東日本大震災当時の小学生～高校生」 に関するアンケート調査ご協力をお願い

「チャイルドラインみやぎ」はイギリスのチャイルドラインにならい、2002年3月からフリーダイヤルで18歳までの子どもの声を聴き続けてきました。その後チャイルドラインは全国に広がり、全国70団体ほどが連携し、毎日16～21時フリーダイヤルで受け付けるようになりました。

東日本大震災の時、宮城県内では大規模な停電が発生し、チャイルドラインみやぎは活動を休止せざるを得ませんでしたが、全国のチャイルドラインが子どもたちの声を聴き続けてくれました。2011年7月よりチャイルドラインみやぎは活動を再開し、さらに実際に被災沿岸部でこどもひろばやキッズスペース等を運営したり、2015年に仙台市で開催された「国連防災世界会議」では、子どもたちの声を聴くフォーラムを開催したりしました。

この間、被災地の子どもたちの様子を見てきましたが、「子どもたちの心のケアが大切」といわれながらも、子どもたちは自分の感情を表に出さず、自分たちの悲しみよりも、周囲の大人を気遣っている様子がかえりました。この子どもたちがこのまま大人になって子育てをするようになった時のことが気になっていたのですが、最近、東日本大震災後に生まれた子どもたちの異変を感じている人が多いことに気づきました。親が生活のことなどで心労を抱えている場合、地震や津波を経験していない子どもたちへも大きな影響があることが明らかになってきたのです。

東日本大震災から9年目を迎えようとしている今、当時の子どもたちの中には現在親になって子育てをしている人もいます。最近阪神淡路大震災から25年目の子育て中の方へのインタビューなどを見るにつけ、私たちが東日本大震災の被災地で出会った子どもたちと重なって見えることも多くあります。

最近、全国で大きな災害が起きています。私たちが阪神淡路大震災から学んだように、東日本大震災を経験した私たちは、次の災害に備えて経験を記録し、災害から学んだことを伝えていきたいと思っています。

私たちは、当時子どもだったみなさんが、震災直後どんなことを考え、まわりの大人たちをどうみていたのか、あって良かった支援や、支援という名の下に傷つけられた経験、成長過程で考えてきたこと、子育てをしながら今思っていることなど、そのままを受けとめるために、アンケートを実施することにいたしました。

可能な範囲でご協力いただければ幸いです。

<アンケート対象者>

東日本大震災を経験した方（被災の度合いは問いません）で、被災時小～高校生でかつ現在子育て中の方

<お願いしたいこと>

アンケートに記入いただき、封書にて下記へお送りください。

アンケートの項目すべてにご記入いただき、住所・氏名を記載いただいた方で、ご希望の方には御礼として3000円のギフトカードをお送りします。

アンケート送付先

〒981-0954 仙台市青葉区川平1丁目16-5 スカイハイツ102 チャイルドラインみやぎ事務局

<アンケート内容について>

自由記載については、チャイルドラインみやぎで発行する冊子やニュースレターなどに掲載させていただく場合があります。氏名の公表はいたしません。



あなたの想いを 聞かせてください

東日本大震災当時

小学生～高校生の方で、

現在子育て中の方へのお願い

まもなく
東日本大震災から
9年目を迎えます。

当時の子どもたちは
どんなことを思いながら
9年間を過ごして
きたのでしょうか。

特に
今子育てをしている
皆さん、
その想いを聞かせて
くださいますか？

特定非営利活動法人
チャイルドラインみやぎ

〒981-0954

仙台市青葉区川平 1-16-5

スカイハイツ 102

TEL&FAX 022-279-7210

Eメール info@cl-miyagi.org